

	岐阜大学 学際分野
学部等の教育研究 組織の名称	地域科学部（第1年次：100名） 地域科学研究科（M：20名）
沿 革	昭和18（1943）年 岐阜師範学校設置 昭和24（1949）年 岐阜大学設置 平成8（1996）年 地域科学部設置 平成13（2001）年 地域科学研究科設置
設置目的等	<p>平成8（1996）年に、「新しい地域づくり」に向けて、地域研究にとって必要な基礎的な理論及び最新の情報を地域の自治体や企業、住民に積極的に提供するとともに、地域にかかわって企画・立案・遂行するためのさまざまな知識と能力を持ち、地域に根ざし地域から構想することのできる人材を養成することを目的として、地域科学部が設置された。</p> <p>平成13年（2001）年に、循環型社会システム形成と、自立型地域社会システムの形成のための政策研究を行い、それらを研究機関・行政・企業・団体などの諸組織において具体的・実地的な地域政策として提言・実践する「高度専門職業人」、すなわち地域社会の指導者を養成するとともに、社会人の再教育を担うことを目的として、地域科学研究科が設置された。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p><b>【総論】</b></p> <p>岐阜大学は、「学び、究め、貢献する」地域に根ざした大学を理念としており、学際分野においては、真理の探究を図るとともに、地域における課題解決の役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。</p> <p>引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。</p> <p><b>【教育】</b> (学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域科学分野の教育研究を通じて、学際的知見及び地域住民との対話と協働に支えられた地域志向の問題発見・課題探求型能力を有し、広く社会で活躍できる人材を養成する。</li> <li>○ このため、人文・社会・自然科学、融合領域に関する科目を全て履修させるカリキュラム整備と、地域が抱える諸課題に対応したコース設定を行い、少人数教育やフィールドワークを実施している。</li> </ul>

- 今後、地域が求めるグローバル人材の資質や能力にもとづいた教育改革を目指し、総合性を重視したカリキュラム改革と講座再編成等を行うなど、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ、体系的な教育課程を編成するとともに、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等を整備すること、また、これらの取組の実施だけではなく、可視化した資質や能力に応じた取組の成果や効果等を適切に把握していくことにより、学士課程教育の質的転換に取り組む。

#### (大学院)

- 学部教育で培われる能力に加えて、さらにより幅の広い視野、より高度な専門応用能力、より大きな国際性を備えた能力を有し、地域社会の指導者たる専門職業人を養成する。
- このため、外国語を重視した特別演習、二専攻に共通する選択必修科目、地域科学特別講義を設けている。
- 今後、日本の内外で地域の指導者足りうる人材をより広範に育成するため、地域と連携し課題解決を図るカリキュラムに取り組むなど、社会人、留学生を含め時代の動向や社会の構造の変化に的確に応え、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制の充実・強化を通じ、大学院における当該分野の強み・特色を明確にする。

#### 【研究】

- 地域科学分野における研究実績をいかし、教員の多様な専門領域を総合・融合した共同研究を実施するとともに、地域のソーシャルキャピタル（社会的なつながりとそこから生まれる規範と信頼）の強化を目指し、地域自治体と研究に取り組んでいる。
- これらの取組を通じて、岐阜地域の自治体職員とともに地方自治体政策研究会が定期的開催され、意見交換、交流が行われている。
- 今後、他の分野との横断的研究プロジェクトに発展させ、地方自治体職員とともに地域の自治体政策の立案に反映できるような取組を行うなど、総合的な研究を組織的に推進するとともに、地域の課題解決・文化の発展に組織的に取り組む。

#### 【その他】

- 全学的な機能強化を図る観点から、18歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学部・大学院の教育課程及び組織のあり方、規模等の見直しに取り組む。
- 大学院においては、入学辞退率の改善のため、魅力あるカリキュラムの再構築、定員規模の見直し等に取り組む。